
バカとテストとヤンデレラ

悠太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカとテストとヤンデレラ

【Nコード】

N5025BA

【作者名】

悠太

【あらすじ】

吉井明久の事が大好きなヤンデレ娘の話し

それはいつも通りに美波と腕を組んで歩いている時に起こった

「吉井…君……？」

僕の名前を呼んだのは幼稚園の頃からずっと同じ学校に通い続けた女の子だった

美波は誰だか分からずに多少混乱してるみたいだ

「えっと…アキ？この娘誰？」

「幼稚園からの幼馴染みの娘だよ」

僕が美波に説明していると、さっきまで俯いていた彼女が急に顔を上げてハイライトの無い眼で喋り出した

「何これ何なのこれ一体どういう事なのよおかしいでしょなんでなんでなんで貴女が吉井君と一緒にいるわけおかしいおかしいおかしい絶対におかしいそこに居るべきなのは貴女じゃないそこには私が居るべきなのよだってそうでしょ私はこんなにも吉井君の事が好きで大好きで愛してるのよ吉井君のスリーサイズも家族構成も普段どんな生活してるのかもお風呂に入った時に最初に洗う場所も昨日何時に寝て今日何時に起きたのかも全部ぜんぶぜんぶ知ってるのなのになんで貴女がそこに居るの私と吉井君は幼稚園の頃からずっと一緒にいたのにぽつと出の貴女が吉井君の隣りに居るなんておかしいでしょ貴女みたいな女が吉井君を誑かすなんて良い度胸してるじゃない私が貴女の肉体にも精神にも誰がそこに居るべきなのか教えてあげるわ吉井君の見る人間も聴く声も嗅ぐ匂いも喋る相手も触

れるものも考える事も総て私であるべきなのそして私を見る人間も私の声を聴く人間も私の匂いを嗅ぐ人間も私に触れる人間も私の事を考える人間も総て吉井君であるべきなの吉井君の総ては私の物私の総ては吉井君の物なのだから貴女なんかが吉井君に話し掛けたり吉井君に触れたり吉井君の視界に入ったり吉井君の思考に入り込んだりしちやいけないの吉井君安心して吉井君は悪くないわだつて吉井君はその薄汚く醜い糞ビッチな女に無理矢理抱き付かれてるだけでしょ吉井君は嫌ですぐにでも離れて欲しいのに優しいから中々言う事が出来ないだけでしょだから吉井君は悪くないわ悪いのはその女よ貴女は吉井君が嫌がつてるのがわからないのなんでわからないの見てみなさいよどう見たつて貴女に触れられてるのを嫌がつてるじゃないのどうしてわからないのよ頭も目も悪いんじゃないのどうして貴女みたいな醜い女がそこにいるのか訳がわからないわ勿論貴女がそれを疑問に思わない理由も違和感を感じない理由も無神経に抱き付いていられる理由もわからないわでももうそんなのどうてもいいのだつて貴女は今から何も出来なくなるんだもの安心してね吉井君こんな誰にでも腰を降るような糞ビッチ女は私が醜く惨たらしく殺してあげるからしたら私と二人つきりで食事にも行きましょ美味しい美味しいステーキでも食べましょか飲み物は血のように真つ赤なスープを飲みましょか金の心配は要らないわ材料なら此処にあるものじゃあまた後で会いましょ楽しみにしててねじゃあ貴女行きましょかすぐには楽にしてあげないから覚悟しててね

長々と喋っていた彼女はそれを最後に美波の腕をかなりの力で引っ張って行き見えなくなつた

そしてそこには顔を青褪めて動けない僕と美波の悲鳴だけが残つた

気が付くと自分の部屋のベッドに寝ていた

僕は夢だったのかと安心し、リビングに続く扉を開けるとそこには夢の中で美波を殺した彼女がいた

あれは夢だあれは夢だと自分に言い聞かせ何故此処にいるのか訊いてみると、美味しそうな肉がいつぱい手に入ったから僕にくれるついでに朝ご飯を作ってくれたみたいだ

テーブルを見てみると確かに美味しそうな肉で作られたっぽいハンバーグがあった

「ありがとう。でも大変だったんじゃない？」

僕が訊くと彼女は綺麗な笑顔でこう言った

「大丈夫よ。この程度の手間は全然苦じゃないわ。だって――

これで私と吉井君の邪魔をする害虫はいなくなっただんだもの」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5025ba/>

バカとテストとヤンデレラ

2012年1月13日22時51分発行